

平成29年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年3月30日

上場会社名 ERIホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6083 URL <http://www.h-eri.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 増田 明世  
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 経理財務グループ長 (氏名) 加藤 茂 (TEL) 03-5770-1520  
 四半期報告書提出予定日 平成29年3月30日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年5月期第3四半期の連結業績(平成28年6月1日~平成29年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年5月期第3四半期	8,412	△3.1	171	△65.1	187	△62.7	109	△67.8
28年5月期第3四半期	8,685	△1.9	490	290.6	502	215.0	339	399.2

(注) 包括利益 29年5月期第3四半期 109百万円(△67.8%) 28年5月期第3四半期 339百万円(398.0%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
29年5月期第3四半期	13	95	—	—
28年5月期第3四半期	43	44	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年5月期第3四半期	4,069	—	2,194	—	53.8	—
28年5月期	4,110	—	2,320	—	56.3	—

(参考) 自己資本 29年5月期第3四半期 2,189百万円 28年5月期 2,315百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
28年5月期	—	15.00	—	15.00	30.00	—
29年5月期	—	15.00	—	—	—	—
29年5月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年5月期の連結業績予想(平成28年6月1日~平成29年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	11,492	0.2	421	△26.1	425	△32.1	256	△38.0	32	78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 有
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年5月期3Q	7,832,400株	28年5月期	7,832,400株
② 期末自己株式数	29年5月期3Q	83株	28年5月期	83株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年5月期3Q	7,832,317株	28年5月期3Q	7,820,949株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種経済対策及び日本銀行による大規模な金融緩和を背景に、雇用・所得環境は着実な改善が続き、企業収益や設備投資に持ち直しの動きがみられるなど緩やかな回復基調が続く一方、英国のEU離脱問題、米国経済政策の動向などの海外経済に不透明感が残るところとなりました。

当業界において、住宅市場については、政府の住宅取得支援策及びマイナス金利政策による住宅ローン金利の低下により、相対策としての賃貸住宅の建設需要が引き続き堅調であったこともあり、新設住宅着工戸数は持ち直しの傾向が続きまして、非住宅の建設市場についても堅調に推移いたしました。

このような情勢の下、当社グループは新築住宅の分野においては、確認検査業務、住宅性能評価業務、住宅瑕疵担保責任保険の検査業務、長期優良住宅技術的審査業務などをワンストップで遂行すること及び全国ネットワーク体制の強化により、他機関との差別化を図り、また、当社グループのコア事業である確認検査業務の収益力を高めるために、大型建築物の受注強化を積極的に推進することを課題として取り組んでまいりました。また、建築物の省エネ化、ストック活用に資する既存建築物の遵法性調査等への取り組みなど、新たな需要を的確に捉えて、当社グループの相乗効果を発揮し、業績の向上に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、一部連結子会社が決算期変更に伴い前年同期に11か月分の売上を計上したことに加え、昨年の建築基準法改正により構造計算適合性判定手数料の取り扱いが変更になった確認検査事業、省エネ住宅ポイント制度に係る証明業務の受付が終了した住宅性能評価及び関連事業、並びにソリューション事業が、それぞれ減収となったことから、その他事業が増収となったものの、売上高は前年同期比3.1%減の8,412百万円（構造計算適合性判定手数料を控除した売上高は、前年同期比1.9%減）となりました。営業費用は、構造計算適合性判定手数料等が減少したものの、省エネ関連業務等新規業務に係る先行投資費用及び訴訟関連費用の一時的費用があり、前年同期比0.6%増の8,241百万円となり、営業利益は前年同期比65.1%減の171百万円、経常利益は前年同期比62.7%減の187百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比67.8%減の109百万円となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

#### (確認検査事業)

構造計算適合性判定の申請に係る手数料が前連結会計年度以降受付分は計上されなくなったことに加え、一部連結子会社の決算期変更に伴う影響、及び完了検査の売上が減少したことから、仮使用認定制度等に係る売上が増加したものの、売上高は前年同期比2.6%減の4,552百万円（構造計算適合性判定手数料を控除した確認検査事業の売上高は、前年同期比0.2%減）となり、営業利益は前年同期比27.4%減の199百万円となりました。

#### (住宅性能評価及び関連事業)

設計住宅性能評価の売上は増加したものの、省エネ住宅ポイント制度に係る証明業務が平成27年10月に受付を終了したこと、及び建設住宅性能評価の売上の減少等により、売上高は前年同期比5.8%減の2,146百万円となり、営業損失11百万円（前年同期は営業利益107百万円）となりました。

#### (ソリューション事業)

大型の既存建築物の調査診断業務の受注減少に伴う減収等により、売上高は前年同期比9.5%減の654百万円となり、営業利益は前年同期比62.3%減の30百万円となりました。

#### (その他)

B E L S（建築物省エネルギー性能表示制度）評価業務等の環境関連に係る売上及び評定業務に係る売上の増加等により、売上高は前年同期比5.0%増の1,058百万円となったものの、省エネ関連業務等新規業務に係る先行投資費用が増加したため、営業損失46百万円（前年同期は営業利益29百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ41百万円減少し4,069百万円となりました。これは、固定資産が19百万円増加したものの、流動資産が60百万円減少したことによるものであります。

流動資産の減少は、流動資産その他の増加116百万円、売掛金の増加93百万円、仕掛品の増加66百万円等があったものの、現金及び預金の減少313百万円等によるものであり、固定資産の増加は、無形固定資産の減少14百万円等があったものの、有形固定資産の増加31百万円等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ84百万円増加し1,874百万円となりました。これは、未払費用の減少163百万円、未払法人税等の減少146百万円等があったものの、短期借入金の増加300百万円、前受金の増加101百万円等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ125百万円減少し2,194百万円となりました。これは、利益剰余金の減少125百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成28年12月28日付「平成29年5月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」にて発表のとおり推移するものとして予想しております。今後何らかの変化がある場合には、適切に開示してまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社グループは、有形固定資産の減価償却方法について、従来、定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この変更は、持株会社移行後初の第6次中期経営計画(平成28年度から3カ年)の策定を契機に、当社グループの有形固定資産の減価償却方法を再検討したところ、有形固定資産はその耐用年数にわたり安定的に使用される見込みであることから、耐用年数にわたり均等に費用配分する定額法を採用することが経営実態をより適切に反映させる方法であると判断したことによるものであります。

なお、この減価償却方法の変更による影響額は軽微であります。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,337,409	2,024,404
売掛金	453,119	546,505
仕掛品	298,917	365,214
繰延税金資産	173,076	149,433
その他	93,272	209,956
貸倒引当金	△271	△264
流動資産合計	3,355,524	3,295,250
固定資産		
有形固定資産	112,254	143,953
無形固定資産	175,702	161,616
投資その他の資産		
差入保証金	407,689	411,907
繰延税金資産	35,321	30,332
その他	23,909	26,150
貸倒引当金	△31	△81
投資その他の資産合計	466,888	468,309
固定資産合計	754,845	773,878
資産合計	4,110,369	4,069,129

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	—	300,000
未払金	171,833	205,727
未払費用	578,133	415,084
未払法人税等	164,579	18,076
前受金	572,408	673,593
その他	143,035	115,297
流動負債合計	1,629,989	1,727,780
固定負債		
退職給付に係る負債	92,475	79,043
長期未払金	67,780	67,780
固定負債合計	160,255	146,823
負債合計	1,790,244	1,874,603
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	992,784	992,784
資本剰余金	26,304	26,304
利益剰余金	1,296,225	1,170,541
自己株式	△70	△70
株主資本合計	2,315,243	2,189,559
非支配株主持分	4,882	4,965
純資産合計	2,320,125	2,194,525
負債純資産合計	4,110,369	4,069,129

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年6月1日 至平成28年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)
売上高	8,685,301	8,412,502
売上原価	6,179,134	6,088,939
売上総利益	2,506,166	2,323,562
販売費及び一般管理費	2,015,536	2,152,111
営業利益	490,629	171,451
営業外収益		
受取利息	1,579	26
保険配当金	5,865	4,667
受取手数料	1,569	1,353
受取保険金	—	10,070
保険解約返戻金	20,891	—
雑収入	1,266	1,425
営業外収益合計	31,173	17,543
営業外費用		
支払利息	2,237	1,499
債務保証損失	17,202	—
雑損失	161	128
営業外費用合計	19,602	1,628
経常利益	502,200	187,366
特別損失		
固定資産除却損	2,771	536
特別損失合計	2,771	536
税金等調整前四半期純利益	499,429	186,830
法人税、住民税及び事業税	101,288	46,482
法人税等調整額	58,827	30,978
法人税等合計	160,116	77,460
四半期純利益	339,313	109,369
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△450	83
親会社株主に帰属する四半期純利益	339,763	109,286

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年6月1日 至平成28年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)
四半期純利益	339,313	109,369
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	339,313	109,369
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	339,763	109,286
非支配株主に係る四半期包括利益	△450	83

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年6月1日 至 平成28年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	確認検査 事業	住宅性能 評価及び 関連事業	ソリュー ション 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,674,717	2,278,763	723,675	7,677,156	1,008,144	8,685,301	—	8,685,301
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	37,925	37,925	△37,925	—
計	4,674,717	2,278,763	723,675	7,677,156	1,046,070	8,723,226	△37,925	8,685,301
セグメント利益	274,311	107,255	79,844	461,411	29,218	490,629	—	490,629

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、住宅金融支援機構融資住宅の審査・適合証明、超高層建築物の構造評定、一定規模以上の建築物の構造計算適合性判定、住宅瑕疵担保責任保険の検査、共同住宅の音環境評価などが含まれております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年6月1日 至 平成29年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	確認検査 事業	住宅性能 評価及び 関連事業	ソリュー ション 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,552,867	2,146,033	654,720	7,353,620	1,058,881	8,412,502	—	8,412,502
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	48,683	48,683	△48,683	—
計	4,552,867	2,146,033	654,720	7,353,620	1,107,565	8,461,186	△48,683	8,412,502
セグメント利益又は損 失(△)	199,166	△11,006	30,064	218,224	△46,773	171,451	—	171,451

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、住宅金融支援機構融資住宅の審査・適合証明、超高層建築物の構造評定、一定規模以上の建築物の構造計算適合性判定、住宅瑕疵担保責任保険の検査などが含まれております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「ソリューション事業」については重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。この変更とともに、事業セグメントの区分方法を見直し、従来「その他」に含めておりました子会社である株式会社東京建築検査機構は、変更後の各報告セグメント及び「その他」に区分しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。